

# 緑ヶ丘遺跡群発掘調査概報

—ナメラ遺跡、岩田遺跡—

1976.3

広島県教育委員会

## 目 次

I 位 置 と 環 境 .....	(1)
II 調 査 の 経 過 .....	(4)
発 堀 調 査 日 誌 抄 .....	(4)
III 調 査 の 遺 跡 .....	(5)
1 ナ メ ラ 遺 跡 .....	(5)
2 岩 田 遺 跡 .....	(9)
IV ま と め .....	(10)

## 図 版 目 次

図版 1	a ナメラ遺跡全景 b ナメラ遺跡住居跡全景	第 1 図 ナメラ遺跡・岩田遺跡位置図… (1)
図版 2	a ナメラ遺跡 A 4 区西壁断面 b ナメラ遺跡出土遺物	第 2 図 ナメラ遺跡地形図…………… (5) 第 3 図 A 5 区西壁断面図…………… (6)
図版 3	a ナメラ遺跡出土遺物 b ナメラ遺跡出土遺物	第 4 図 住居跡実測図…………… (6) 第 5 図 出土遺物実測図…………… (8)
図版 4	a 岩田遺跡全景	第 6 図 岩田遺跡地形図…………… (9)

## 挿 図 目 次

# 図 版

図版 1

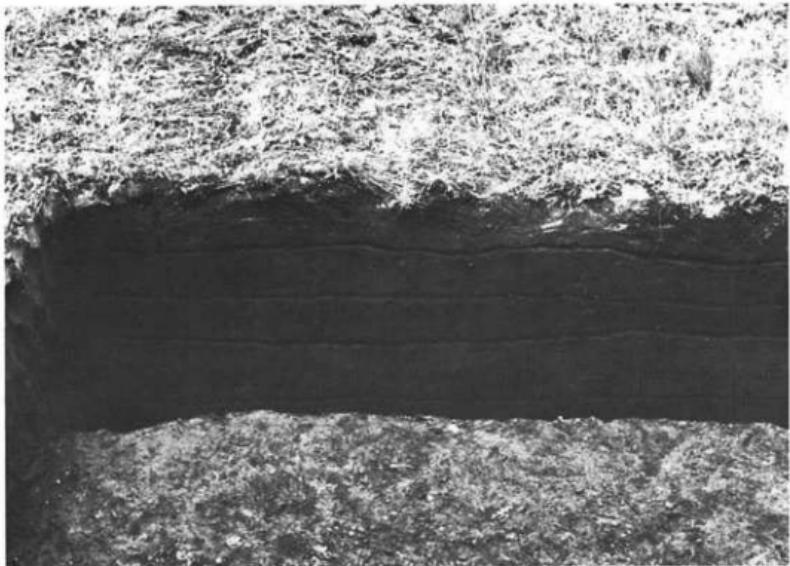


a ナメラ遺跡全景

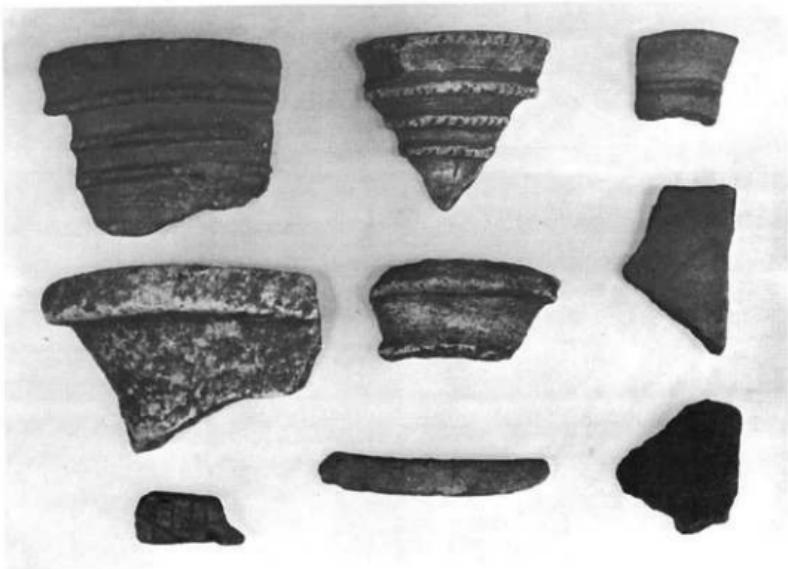


b ナメラ遺跡住居跡全景

図版 2

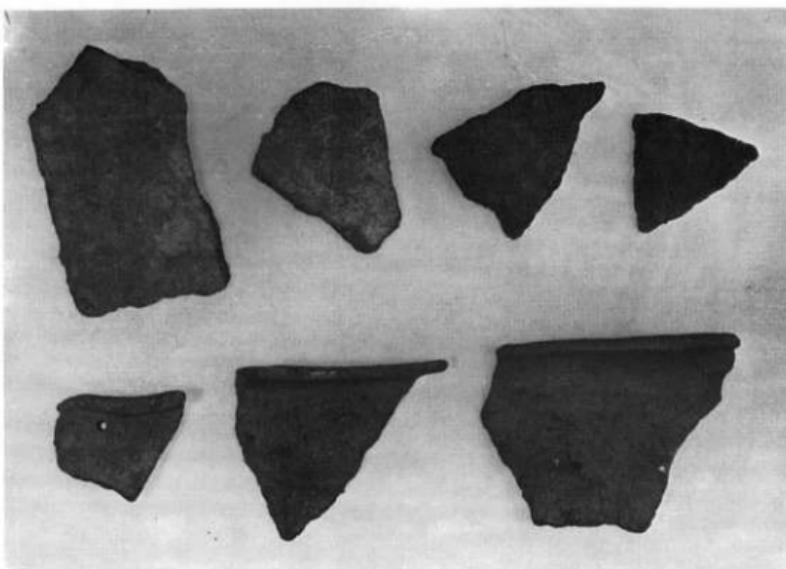


a ナメラ遺跡 A 4 区西壁断面

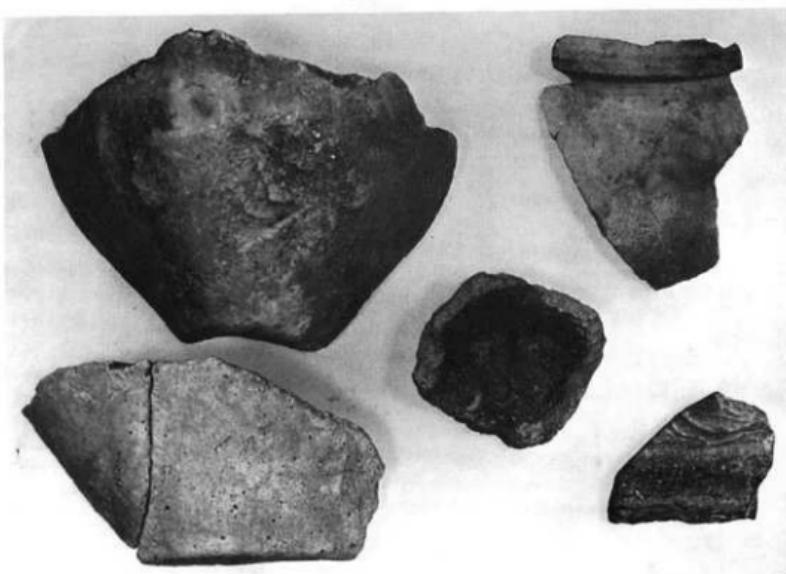


b ナメラ遺跡出土遺物

図版 3



a ナメラ遺跡出土遺物



b ナメラ遺跡出土遺物

図版 4



岩田遺跡全景

## I 位置と環境

ナメラ遺跡・岩田遺跡は深安郡神辺町大字川南字岩田に所在している。両遺跡の位置及び環境については、ゴルフ場造成予定地内にかかる遺跡として1973年に事前に調査され、報告されているが、今回調査した遺跡はゴルフ場造成予定地の南西端にあたっている。

府中市方面から東流してきた芦田川は、沖積平野を形成しながら駅家町と神辺町の町境部で



第1図 ナメラ遺跡・岩田遺跡位置図

1. ナメラ遺跡
2. 岩田遺跡
3. 草木遺跡
4. 丹花遺跡
5. 亀山遺跡
6. 大宮遺跡
7. 磯波遺跡
8. 大追跡

大きく南に流路を変え、東から流れてきた高屋川の水を集めて福山市街地に流れ込んでいる。この芦田川は特にこの屈曲部において大きな沖積地一神辺平野を形成しているが、調査した遺跡はこの屈曲部の南東で、北の神辺町と南の福山市街地を画す一低丘陵上標高約160mの天神山の頂上とそれに連なる丘陵に位置している。

神辺町付近は「吉備穴國」と呼ばれているように、古くは福山湾が大きく湾入しており、駅家町坊<sup>(1)</sup>や神辺町川北方面まで海水が流入していたと言われている。<sup>(2)</sup>

弥生時代の遺跡は、福山湾<sup>(3)</sup>では14ヶ所、神辺町では40ヶ所以上の遺跡が確認されている。前期の遺跡はあまり多くはないが、ザブ遺跡（福山市津之郷町）、加屋遺跡（福山市津之郷町）、草木遺跡、亀山遺跡（神辺町道上）、大宮遺跡（神辺町湯野）などが農耕開始期の遺跡としてあげられる。ザブ遺跡は前期～後期にかけて継続して営まれた集落跡と思われるが、本谷川の形成する沖積地だったようで、基盤が砂地のため遺構としては明瞭に確認されていない。前期後半から中期にかけての遺物が多く、その頃に最も盛えたことがうかがえる。このような沖積低地あるいは低湿地に立地する遺跡としては上記のうち、芦田川の沖積地にあったと思われる草木遺跡、高屋川の自然堤防上にあったと思われる大宮遺跡があげられよう。亀山遺跡では明瞭な遺構は確認されていないが、石器の未製品や石材であるサスカイト片が多量に出土していることから石器製造跡とも考えられる。

中期に入ると前期から引き続いて生活を営んでいるもの他に、農耕技術の発達と生産力の増加により各地に遺跡が増加してきており、沖積低地のみでなく、丘陵上や山間部にも進出してきている。特に神辺町では下御領、湯野、道上地区に多く発見されており、芦田川、高屋川もかなり沖積地化が進み、神辺平野が形成され始めたことを物語っている。特にこれらの遺跡は神辺平野の北側に多く、南の方はまだ海水が流入して生活のできる状態ではなかったことを推測させる。

後期にはこれらの遺跡は更に増加し、谷あいでの谷水田を求めて山間部にまで存在するが、更にそれに加えてこれら小集落とは別に、沖積低地における大集落の存在が予想されている。それは近年調査された樋渡遺跡において、大溝の中から百個体以上の土器が発見され、また大型の丹塗りの器台が発見されている。下御領から湯野にかけた沖積低地には、こうした集落が広く存在していたものと思われる。

弥生時代は青銅器の文化と言われているが、広島県における青銅器の大半が、この備南の地域に集中している。例えば、ザブ遺跡の付近で貨泉の出土した本谷遺跡、草木遺跡の西側で巨大な岩はだの露出した所で岩石採掘中に細形銅劍が出土したと言われる大迫遺跡（福山市郷分町）、同じく細形銅劍の出土した箕島遺跡（福山市箕島町）、平形銅劍を出土した熊野遺跡（福山市熊野町）があげられる。

(注)

- ① 広島県教育委員会「緑ヶ丘遺跡群発掘調査概報」1974年
- ② 登元国「石器時代の吉備穴庭」芸術文化8、9 1956年
- ③ 神辺郷土史研究会「弥生時代の神辺」神辺の歴史と文化第3号 1975年
- ④ 広島県教育委員会「ザブ遺跡」山陽新幹線建設地内遺跡発掘調査報告 1973年
- ⑤ 潮見浩「広島県龟山遺跡発掘調査報告」広島大学文学部紀要21 1962年
- ⑥ 松下正司、鹿見啓太郎、加藤光臣「神辺方八町の調査(一)、(二)」草戸千軒町遺跡=マースNo.17、19、1974、1975年
- ⑦ 木下忠「広島県における弥生文化時代の青銅器発見地名表」広島考古研究第2号、1960年

## II 調査の経過

グリーンヒル福山ゴルフ場造成予定地は約200万m<sup>2</sup>に及んでおり、造成予定地内の埋蔵文化財については、分布調査により23ヶ所の遺跡を確認し、それに基づいて協議調整を行った結果、結局設計上止むをえない6ヶ所の遺跡について1973年に発掘調査を行なった。

その後ゴルフ場の設計変更があり、設計図を基に再三協議を重ねたが、保存が不可能なため、今回止むをえず調査を実施することになった。発掘調査は広島県教育委員会の、新谷武夫、三好晴弘、中田昭が担当し、1975年5月12日から5月23日まで延11日間行った。

### 発掘調査日誌抄

1975年

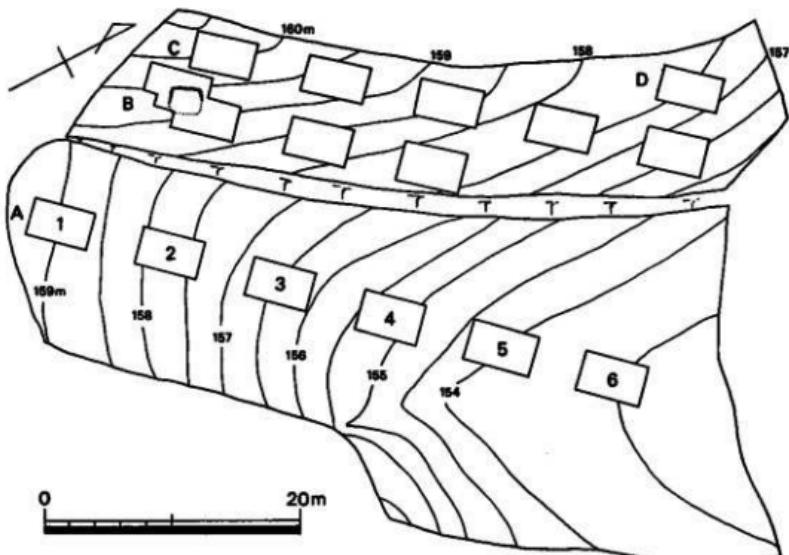
- 5月12日（月）晴 ナメラ遺跡に発掘用具を運搬、現場の下草刈りを行う。
- 5月13日（火）晴 全景写真を撮影。縮尺1/200にて平板測量を開始する。グリッドを設定しA 1～3区、C 3区を調査する。
- 5月14日（水）雨のち曇 B 2～4区、C 2、5区を調査したところ、B 2区より方形の住居跡発見、南側を拡張する。
- 5月15日（木）雨のち曇 平板測量完了。A 4、5区を掘り下げる。3層より主に弥生式土器片、安山岩の剝片が出土する。B 5、C 6、D 6区を調査したが耕作土のみで他に遺物はみられなかった。B 2区の住居跡の写真撮影、実測を行う。
- 5月16日（金）晴一時曇 A 1～5区の西壁の断面図作成。尾根の部分の踏査及び試掘を行ったが遺構、遺物は全く発見できなかった。
- 5月17日（土）晴 A、B、Cの各4区の南壁の断面図作成。A 6区の西壁の断面図作成。調査区全体の写真撮影を行いナメラ遺跡の調査を完了する。岩田遺跡の下草刈りを開始する。
- 5月18日（月）曇一時雨のち晴 岩田遺跡へ発掘用具を運搬、遺跡の遠景写真を撮影する。トレンチを遺跡の中央に十字形に設定し表土の排除を開始する。
- 5月20日（火）晴一時曇 縮尺1/100にて平板測量を開始する。遺物は表土下の黒色土中より出土しているがいずれも細片で磨滅しており、尾根の上方から流れ込んできた可能性が強い。
- 5月21日（水）晴 3Tに溝状の落ち込みがあったので、東側に5Tを設定して溝の広がりを追う。
- 5月22日（木）晴 3Tの溝は5Tでは途中で途切れ黒色土もなくなっていた。遺跡全体の写真撮影をする。岩田遺跡のある尾根上を試掘したが、遺構、遺物は確認されなかった。トレンチの東西南北の断面図を作成した。
- 5月23日（金）晴 発掘調査区を平板測量し調査を完了する。

### III 調査の遺跡

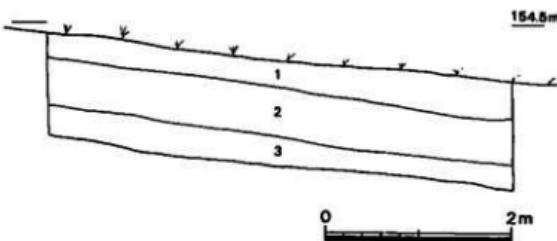
#### 1 ナメラ遺跡

遺跡は標高164mの天神山から北に向って延びる尾根にかこまれた漏斗状の部分にあたる。最近まで畑地として利用されていたところで、遺物の散布が認められる頂上部の2枚の畑を調査の対象とした。

広さは東西約40m、南北約60mあるが、谷の最も深い部分に地形の傾斜に合わせて南北に3×5mのグリッドを4mおきに6ヶ所設定しこれをA区とした。これについて上段の畑にB、C、D区を設定し、B区に3ヶ所、C区に5ヶ所、D区に1ヶ所グリッドを設けた。遺跡は、過去の耕作のために東西の尾根が削られて平坦になっており、西側では約50cm、東側では約130cmぐらいの崖状の段差がついている。そのために2枚の畑のうち西側の高い方では、表土が非常に浅く10~30cmぐらいで地山になっている。また遺構の保存状態も悪くほとんど削平されたようでB2区に住居跡が一軒発見されたにすぎない。従って遺物も尾根に近いレベル的に高い方には発見されずA4~6区に集中している。

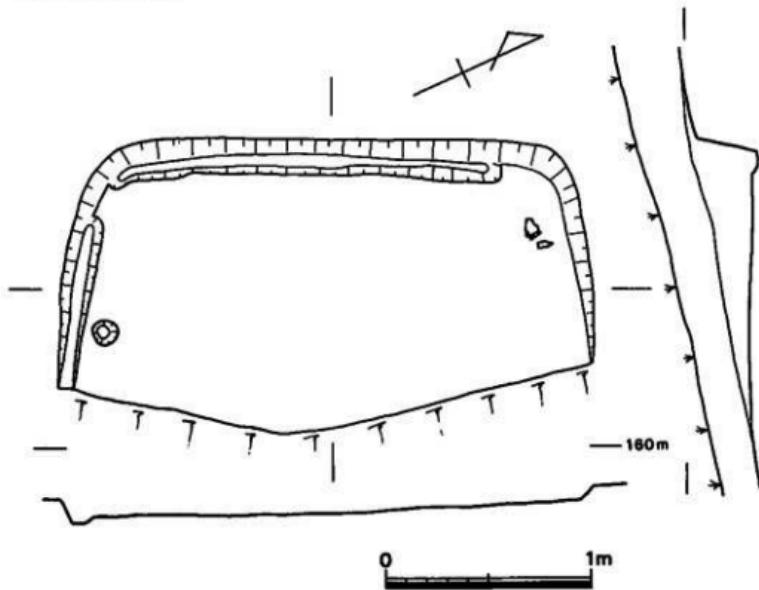


第2図 ナメラ遺跡地形図



第3図 A 5区西壁断面図

遺物包含層はA 2～6区に認められ、斜面に従って約10°の傾斜をもっている。厚さは4区で約25cm、5区で約50cm、6区で約40cmと5区が最も厚く遺物の量も最も多い。A 5区西壁の断面図によると、第1層が畑の耕作土で褐色土、約20cm、第2層が黒褐色土で炭を含んでおり、粒子の細かい粘質の土で遺物包含層である。第3層が明褐色の砂まじりの粘質土で自然堆積土と思われる。第4層が黄褐色土の地山となっている。この第2層に遺物を含んでいるが、遺物は弥生時代中期のものがほとんどで破片が多く完形品になるものはない。おそらく尾根上より転落して集積したと推定される。そのため東西の北に延びる尾根上を数ヶ所試掘したが遺構は発見されなかった。



第4図 住居跡実測図

### 住居跡

住居跡はB2区のところに1軒のみ発見され、地表面から約25cmほど表土を取り除いたところに住居跡の落ち込み線が現われた。住居跡内の充満土は暗褐色土で砂粒をあまり含まないが、炭を点々と含んでいる。西から東に向って下降したところに位置しているため東半部が流れしており、残存部分からするとプランは一辺260cmの方形になるものと思われる。

西側の高い方の辺は直線的であるが、南北の斜面になる部分はやや調張りぎみである。幅約17~20cmの壁溝が西側に、10~15cmの壁溝が南側に検出された。床面の柱穴は南端に径12cm、深さ11cmのものが1個みられたがこれを柱穴と考えるには位置や検出の状態から判断して妥当もあり判断できない。

### 遺物(第5図)

住居跡内の遺物は床面上に壺の破片がみられた他、充満土中から不定形刃器1が出土している。(21)は壺で口径10cm、胴部最大径12.9cm、頸部径9cmで複合口縁部に3本の凹線を配している。器面の調整は外面は頸部から下は縫のハケ目、内面は斜めにヘラ削りをしている。後期前半の土器と思われる。(23、24)は底部であるが、(23)は底径5.4cm、(24)は9.3cmをはかる。いずれも平底である。(25)は不定形刃器でありと大きめの石を両側から調整を加え、下部とその反対側の上部の2ヶ所に刃部をもうけている。

その他の遺物では、後期のものはほとんどなく、(22)で複合口縁部には5本の凹線がついた壺の破片のみである。以下、説明する遺物は全て中期中葉の遺物である。

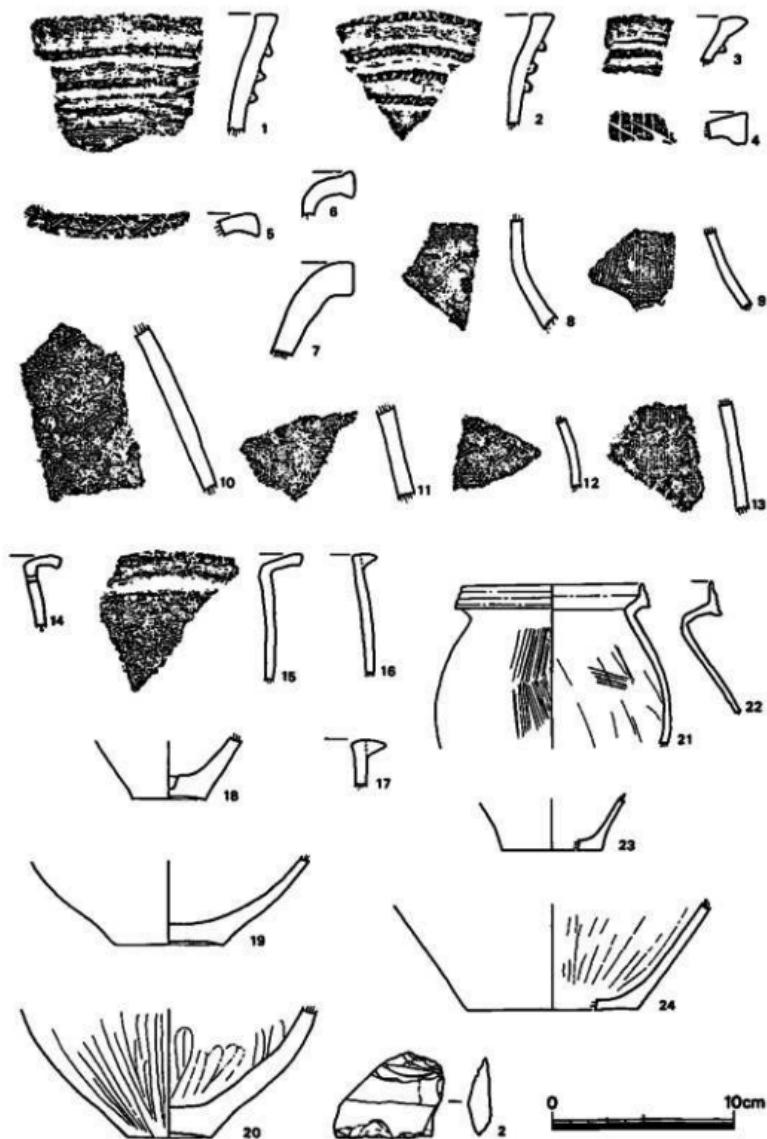
### 壺形土器

- a 口縁上端が平坦で、口縁下に凸帯を設けているもので、凸帯に刻目のないもの(1)と、あるもの(2、3)がある。
- b 口縁部がラッパ状に開いて外反し、口縁端部が肥厚して垂下し、口縁端部に文様をついているもの(4、5)
- c 口縁部がラッパ状に開いて外反しているもので、文様が付してないもの(6、7)  
口縁部の形状により以上の3つに分類できるが、頸部から胴部にかけては齒齒状施文具で、直線文、鋸歯状文、波状文を付している(8~13)。

### 壺形土器

口縁部がくの字状に外反するもの(14、15)と、口縁部が、逆L字状をなし口縁上端が平坦になっているもの(16、17)とがある。(14)は口縁直下に円形の孔を開けている。

この他(18~20)は底部であるが、いずれも上げ底で、底部から胴部にかけての立ち上がりは、内ぞり気味に開いている。(18)は底径4cmで底部中央に穴を開けかけており、瓶の未製品と考えられる。(19)は底径5.9cm、(20)は底径4.4cmをはかる。



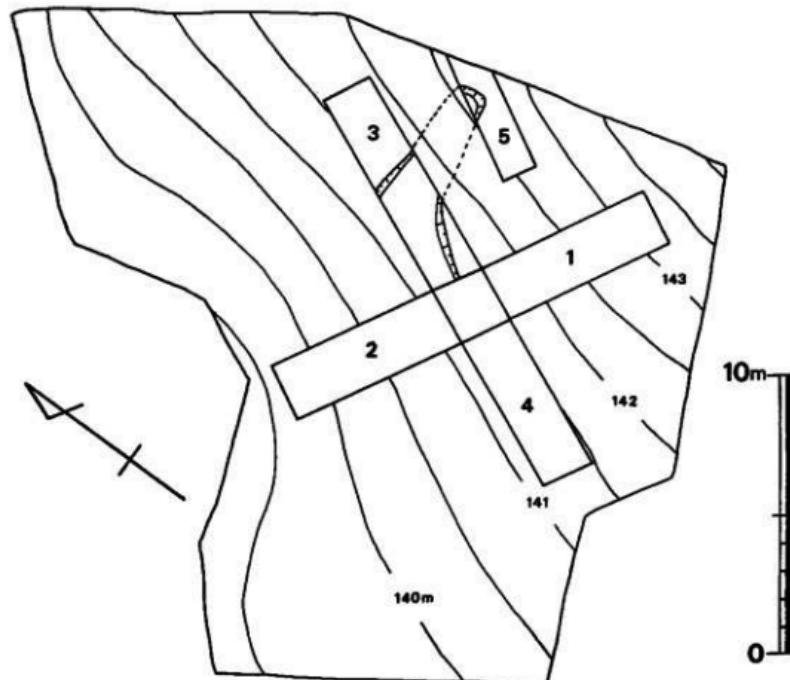
第5図 出土遺物実測図

## 2 岩田遺跡

ナメラ遺跡と同じく緩傾斜地に位置する畠地であり、畠の中央に斜面に従って十字に幅2mのトレンチを設定した。東側の高い方を1T、西を2T、北側を3T、南側を4Tとした。遺構としては、3Tに炭と土器を含む黒褐色土の溝状の落ち込みがみられたのみであり、その広がりを追って3Tの東側に5Tを設けた。しかしその溝は途中で途切れており、この溝状の遺構内の黒褐色土は2T、4Tにも広がっていた。またこの遺物包含層である黒褐色土内に含まれる土器は、非常に細片で磨滅が著しく量的にも少ない。従ってこの溝状の遺構は人為的なものとみるよりも自然的に出来た溝内に遺物が、高所から転落してたまつた方が良いようと思われる。

遺物は非常に細片で量も少ないので、図面に出来るものは無いが、壺形土器で口縁下に凸帯をもつものの細片が発見されているので、中期中葉の遺物のように思われる。

また、これらの遺物が尾根上より転落した可能性が強いので、尾根上に1×1mの穴を2mおきに43ヶ所試掘したが遺構は発見されなかった。



第6図 岩田遺跡地形図

## IV まとめ

以上、ナメラ遺跡・岩田遺跡の調査概要を述べた。

ナメラ遺跡は、最近まで畠として利用されていたため、造構がほとんど破壊されたようで、後期前半の住居跡1軒のみ検出したにすぎない。住居跡は1辺260cmの方形状で、規模が非常に小さいもので、内部の柱穴などがはっきりしないところからすると、定住的な建物とするより、仮設的建物とみた方がよいように思われる。

この他中期中葉のかなりまとまった遺物包含層を検出したが、この時期の造構は発見できなかった。結局ナメラ遺跡では中期中葉と後期前半の2時期に人々が住んでいたことがうかがえるが、標高約160mの天神山の頂上に位置しているという特徴は注意しなければならない。

中期中葉の時期には、前述した草木遺跡やザブ遺跡のように沖積低地に存在するか、微高地に存在するものが多く、また後期前半の時期にも、疊溝遺跡のような沖積低地や、最近発掘調査された手坊谷、池ノ内遺跡群（福山市駅家町）のように微丘陵上に存在するものが多い。しかるに、ナメラ遺跡は福山湾岸を一望できる場所にあり、いわゆる高地性の遺跡ということができる。

高地に位置する遺跡についてみると、微丘陵上に位置する場合と、水田耕作にはよほど適さないが陥落のよくく山頂部にある場合とがあるように思われる。手坊谷、池ノ内遺跡群の場合、これらのうち前者にあたり、高地といつても比高のあまりない微丘陵上であり、農耕生産に基づく分村の結果尋き出されたということができる。従って通常の遺跡の場合はほとんどが高地といつても微丘陵上と言えるようである。高地性集落については、防塞集落説、畑作村落説、防御機能を備えた畑作村落説、異民族集落説などが考えられているが、ナメラ遺跡の場合は、前述したように福山湾岸を一望できる高所にあり、しかも瀬戸内海を眼下に見おろす場所にあるということで、西山貝塚（広島市戸坂町）と同じように、内海航路を監視し掌握するための軍事的、防塞的性格をもつ遺跡とも考えられるが即断はできない。

岩田遺跡は、中期中葉の遺物を少量出土し、溝状造構があったが、この溝は自然的な溝と考えた方がよさそうで、この溝内に尾根の上の方から遺物が転落した感が強い。ただ全山煙としで利用されているため造構の存在は確認できず開拓時に破滅したものと思われる。

(注)

① 小野忠輝「集落と住居」新版考古学講座4、1969年

② 神尾明正「広島市外西山貝塚」史前学雑誌8—5 1936年

神尾明正「広島市牛田町西山210米貝塚」人類学雑誌52—12 1937年

神尾明正「広島市戸坂村258米貝塚」史前学雑誌10—4 1938年

池田次郎「広島県西山258米貝塚の遺物」日本考古学1—3 1948年

藤田 等「巴形銅器を出土した西山貝塚調査報告」『日本考古学協会昭和40年度大会研究発表要旨』1965年

川越哲志、川越俊一、乗安和二三「広島市西山貝塚第二次調査」広島史学研究会発表要旨 1972年

## あ　と　が　き

本概報は、昭和50年に広島県教育委員会が実施したグリーンヒル福山ゴルフ場内に含まれるナメラ遺跡、岩田遺跡の発掘調査概報である。本概報の執筆は広島県教育委員会文化財保護室指導主事の中田昭があたり、図版作成にあたっては、同じく新谷武夫、三好晴弘の協力を受けた。

なお、本書第1図に掲載した地図は建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の50,000分の1地形図を複製したものである。

(承認番号) 昭和51、中復、第15号

昭和51年3月

### 緑ヶ丘遺跡群発掘調査概報

編集・発行 広島県教育委員会

印 刷 所 株式会社柳盛社印刷所  
広島市東白島町8-23